TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

シリーズ 詩篇 人生の反映 主を祝福する
詩篇 16 篇

2022 年 8 月 27 日&28 日
ジェシー セザリオ 牧師

TBC ウェスト トウキョウ、TBC 三郷、スヴァバプテスト教会、トンガバプテスト教会などオンラインで礼拝に参加している皆さん、こんにちは。今日も主なる神、救い主イエス・キリストの臨在を体験することができますように。

イントロダクション
今日は、私が最近読んで印象に残った 2 人の少女に関する記事についてお話します。
ある日、10 代の少女が部屋で倒れているところ、父親によって発見されました。何が起こったのかわからないまま、すぐに病院に運ばれました。それまでの数週間、家族は何の異変も感じていませんでした。検査の結果、彼女はオピオイド（アヘンに似た作用を持つ合成麻酔薬）の過剰摂取であることが判明しました。近年、世界中で、特にアメリカでは、オピオイドが大流行しています。多くの人々、特に若い人々が合成オピオイドの処方により中毒症状が出て、死亡に至るケースがあります。本来は医者の安全な指示のもと使用されるべきですが、実際はそれが乱用されてしまっています。その少女は何か月か前に友人たちと楽しむために使用し始めましたが、家族は気づいていませんでした。医者の懸命の努力にも関わらず、少女は命を落としてしまいました。

もう1つは、ある家族が気候の良いビーチリゾートに行った時の話です。そこで少女は、些細なことから兄と喧嘩になり、怒って海に飛び出し泳ぎ始めます。怒りに任せて少女はどんどんと岸から遠く離れていってしまいます。危険を察した兄が助けに行こうとしますが、少女はさらに離れていきます。その時、突然、少女は自分が潮に流されて沖に向かっていることに気づきます。恐怖を感じた少女は懸命に戻ろう、兄の所へ行こうとします。兄もまた、潮に流されていましたが、2 人で懸命に助け合いながら救助されます。

この2つの話は、それぞれの状況が全く異なります。しかし、なぜ片方は生きのび、もう片方は亡くなってしまったのでしょうか。それぞれの少女には、何らかの防止策があったはずですが、その違いは何だったのでしょう。答えは明らかです。1 人の少女は自分の命が危険にさらされていることに気付いたのに対し、もう 1 人はそれに気付かなかったことです。気付いた方の少女は、手遅れになる前に救いを求め、気づかなかった方の少女は亡くなってしまったのです。
始める前に一緒に祈りましょう。

詩篇16篇
ミクタム。ダビデの詩。
[1]神よ、私を守ってください　私はあなたのもとに逃れました。
[2]私は主に言います。「あなたこそ、わが主。あなたのほかに幸いはありません」と。[3]この地の聖なる者らに私の喜ぶ力ある者すべてに言う。[4]「他の神を追う者は苦しみを増すがよい。私は、血を注ぐ彼らの供え物を献げず　その名も口にしない」と。
[5]主はわが受くべき分、わが杯。あなたこそ、私のくじを決める方。[6]測り縄は麗しい地に落ち　私は輝かしい相続地を受けました。[7]諭してくださる主をたたえよう。夜ごと、はらわたが私を戒める。[8]私は絶えず目の前に主を置く。主が右におられ、私は揺らぐことがない。[9]それゆえ、私の心は喜び　心の底から喜び躍り　この身もまた安らかに住まう。[10]あなたは私の魂を陰府に捨て置かず　あなたに忠実な者に滅びの穴を見せず[11]命の道を私に示されます。御前には満ち溢れる喜びが右の手には麗しさが永遠にありますように。

これはダビデの祈りです。ダビデが神様の前に自分をさらけ出し、神様と親密な関係を保っている様子がわかります。神様を愛し、神様を完全に信頼している様子が伺えます。しかしダビデはどのようにしてそこに至ったのでしょうか。ダビデは完璧からは程遠い人でしたので。
質問1：どうしてダビデのような人間が、罪人を地獄に追いやる神様のことを信頼できるのでしょうか。ここで皆さんに思い出して頂きたいのが、ダビデは嘘つきで、人殺し、姦淫を犯し、戦争で血を流し、彼自身とイスラエルの民に裁きをもたらすサタンの代理人だと聖書に書かれていることです。ですから、どうやったら、このような人間が神様のことを完全に信頼できるのかを考えてみてください。人類に裁きを下す神に、喜びを持って。ダビデはどのようにして神様の御心に叶う人間になったのでしょうか。

質問 2: 私たちはどのようにしたら神様に完全なる信頼を寄せることができるのでしょうか。

詩篇 16 篇はこのように始まります。[1]神よ、私を守ってください　私はあなたのもとに逃れました。
これはまるで嘆願しているかのように聞こえますが、読み進めてくとダビデが神様に強い信頼を寄せていることがわかります。だから 1 節は、他と少し違っています。
また、1 節ではヘブライ語の El（=God）が使われているのに対し、2 節以降は Yahweh （ヤーヴェ）（=Lord）が使われています。Yahweh に比べると El の方がかしこまった感じがしますが、El は「全能者」を意味します。このような神様の呼び方は、創世記に始まります。創世記 14:19-20 で王メルキゼデクはアブラムを祝福しています。[19]彼はアブラムを祝福して言った。「天と地の造り主、いと高き神にアブラムは祝福されますように。[20]敵をあなたの手に渡されたいと高き神はたたえられますように。」

その後、アブラハムとしても知られているアブラムは、自分の所有しているものの 10%を王メルキゼデクに与えます。そしてそのすぐ直後からアブラハムは Jehovah-Jireh という名前を使い始めます。神様がアブラハムを祝福してくださったので、Yahweh（ヤーヴェ）の神様は与えてくださる、という意味です。ですから、ダビデが使う El （=全能者）はこれら全てに繋がる神様の特別な名前なのです。

1節目だけが他と少しかけ離れた感じがしているので、それを詩的なタイトル・主題と位置づけてもいいと思います。
[1]神よ、私を守ってください 私はあなたのもとに逃れました。

ダビデはここでは困窮して神様に嘆願しているわけではありません。ダビデは「神様、私はあなたを信頼しています。あなたが私を守って生かし、与えてくださることを理解しています。」と言っているのです。神様に生かしてくださいと嘆願しなくても、神様は生かし日々の糧を提供してくださることはわかっているのです。そういう意味では、あなたも神様に嘆願する必要はありません。「神様に懇願する」というと、何か誤解があるようですが、神様に霊的な物乞いというアプローチで神様に近づくことは必要です。

質問:懇願する人(物乞い)とはどういうことでしょうか。

アメリカのNBCニュースのとあるレポートによると、道で物乞いをする人の中には1日で高くて400ドルを集めることができる人がいるそうです。面白いことに、スーパーマーケットの外の駐車場で人に声をかけてお金を集めているらしいのですが、スーパーマーケットの中で働く人たちはその1/4の額の稼ぎしかありません。ここでは一体誰が物乞いで、なぜそうだと言えるのでしょうか。

重要なポイント:物乞いをする人は自分が物乞いだと認識しています。それがわかっているから、物乞いできるのです。お願いします、と言って頼めばいいのだと分かっているのです。自分は物乞いであっても、恥ずかしがらずに求めるのです。

聖書には、イエス・キリストの元へ助けを求めに来た者すべてを、イエスは助けようとされたと書いてあります。大切なポイントは、彼らが助けが必要だと認識して、霊的な物乞いになって助けを求めたことだと思います。
マタイによる福音書 7:7-9
[7]「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。叩きなさい。そうすれば、開かれる。[8]誰でも、求める者は受け、探す者は見つけ、叩く者には開かれる。[9]あなたがたの誰が、パンを欲しがる自分の子どもに、石を与えるだろうか。

ダビデは、自分には何もなく、何も神様から受ける価値がないことを理解しています。しかし、Yahweh(ヤーヴェ)を信頼することで、「あなたこそ、わが主。あなたのほかに幸いはありません」と大胆に確信を持って言うことができたのです。これが神様の御心であり、神様のダビデや私たちに対する愛なのです。

真実が語られる時(3-4節) 神様と共にあって
質問:ダビデは神様の善について何といっているのでしょう。

神様の善は神様と共にいることにあり、神様なしでは善はない。ダビデは知識としてだけではなく、魂の深い部分でこれを理解しているのです。真の善は神様との関係を持った時にのみ生まれることを理解しています。この世の人々も感覚的には救世主である神様が必要なことはわかっているのです。そうでなければ、これだけヒーローを題材にした映画が生まれるわけがありません。過去20年間で最高の興行収益を挙げている映画はどれもヒーロー映画です。この世界的な現象がなぜ起きているか、そして増えていることに気づき、それが何故だか考えたことがありますか。

神様と共におらず
聖書にはこの世の終わりがあり、最後の審判があることが書かれています。審判は神様、イエス・キリストを救い主として受け入れない全ての人に対して下されます。オピオイドの過剰摂取で突然亡くなった少女のように、自分が気づく前に世の終わりが来るかもしれません。聖書にはこの世の終わりは自分が思っている以上に早く、突然に訪れると書いてあります。しかし、その前にはあらゆる危険信号が発せられます。沖の遠くまで泳いで行き過ぎてしまった少女も、危険信号を察知したので救われたのです。私たちもこれらの危険信号を察知できているでしょうか。

テモテへの手紙二 3:1-5
[1]このことを知っておきなさい。終わりの日には困難な時期がやって来ます。[2]その時、人々は、自分自身を愛し、金に執着し、見栄を張り、思い上がり、神を冒瀆し、親に逆らい、恩を知らず、神を畏れなくなります。[3]また、情けを知らず、和解せず、人をそしり、自制心がなく、粗暴になり、善を好まず、[4]人を裏切り、向こう見ずになり、気が変になり、神よりも快楽を愛し、[5]見た目は敬虔であっても、敬虔の力を否定するようになります。こういう人々を避けなさい。
この5節に注目してください。今日、SNSを見れば世の中のカルチャー、人々が何に対して価値を見出しているか、人間としての価値をどこに置いているかがわかるような気がします。私はこの世の終わりは近いのではないかと感じずにはいられません。SNSを見ていると、「私に注目して!私はこんなものを持っている、こんなことが出来る!」というアピールばかりでこの聖句が言うとおりに見えます。…この世の終わりは近いでしょう。
ダビデは詩篇3-4節で、人々が真の神様を求めず、自分の快楽を満たしてくれるものを神とみなし、それを追い求める人々の姿を描いています。今日、人気があってフォロワー数が多く、お金を稼ぐ人々を偶像化して崇拝していることと似ています。

3節のヘブライ語の聖書の解釈は難解です。しかし、詩編の文脈によって解釈すると3節と4節には関連があるとする説もあり、私はその解釈に同意します。
[3]この地の聖なる者ら(この世の神々)に対して崇拝者たちは言う。私の喜びはすべて、彼らの中にあります。[4]他の神を追う者は苦しみを増すがよい。私は、血を注ぐ彼らの供え物を捧げずその名も口にしない。」と。
ダビデはこの世の神々を崇拝して供え物を捧げることを拒んだのです。

質問:あなたは、SNSで人をフォローしたり、サブスクライブしたりする時、それがどのような内容なのかしっかりと理解していますか。取り敢えずフォローしてみよう、と安易にボタンを押していませんか。取り入れる情報を自分でコントロールすることが必要です!
聖書を文字通り受け入れる人であれば誰でも、この世には終わりがあることを知っているでしょう。それがいつ来るかは誰もわかりませんが。なぜ世の終わりが来るのだろう?と思うことがよくあります。そして私の答えは「教会が死んだとき」だと考えています。テモテへの手紙二の3章5節はほかの誰かの話ではありません。これは人類のことであり、教会の中にもありえることなのです。

マタイによる福音書 24:12-14
12 不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える。13 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。14 そして、この御国の福音はすべての民族への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから、終わりが来る。

教会が祈ることをやめ、イエス・キリストの福音の真理を説教することをやめ、福音を伝道するミッションを放棄しはじめ、この世の価値を追求することに取って替わるならば、教会の心は冷えて愛がなくなり、教会は死に至ります。そして世の終わりが来ます。

YouTube でクリスチャンのメッセージや音楽を検索し、がっかりした気持ちになったことはありませんか。私はあります。そこで、他のクリスチャンにとって、クリスチャンとして生きる価値が何であるかを垣間見ることができます。誰が最も人目をひくタイトルをつけたか、誰が最高のミュージックビデオを提供しているか、誰の笑顔が最も素晴らしいか、誰が間違えているのか、誰が最高のスーツを着ているか。これは何のためでしょうか。再生回数を増やすため？こんなのは見てくれだけです。信仰なしの働きがそこにはあります。
5 見た目は敬虔であっても、敬虔の力を否定するようになります。こういう人々を避けなさい。（2テモテ 3:5）

今私たちにできる唯一のことは神様に物乞いのごとく懇願し、求め、耐え忍ぶことです！聖霊が罪を気づかせてくださるよう祈りましょう。一人ひとりが自分の罪深さに気づき悔い改めることが出来るよう祈りましょう。聖霊の働きなくして、リバイバルや変化は訪れません。聖霊の導きに耳を傾ける人々なくしてあり得ないのです。なぜでしょうか。

それは聖霊こそが私たちに罪を気づかせてくれるからです。もしもこの話を聞いていて、何か心に引っかかる人がいれば、神様に感謝しましょう！それは、神様がその人に呼び掛けてくださっている証拠だからです。悔い改めへの呼びかけ、祈りや説教に対する呼びかけ。他の国や場所に行き、恥じらうことなくイエス・キリストの福音を述べ伝えることに対する神様からの呼びかけです。

覚えていてください。イエス・キリストは再び戻ってこられます！今日の世の中を見てください。心の準備をしておいてください。世俗的な価値観に流されないでください。教会やクリスチャンには絶えず、神様から離れて他の偶像を崇拝する誘惑がついてまわります。いつも自分を振り返り、命が終わるまで神様にのみ信頼を寄せる生き方を貫きましょう。教会のみなさん、今すぐに神様を信頼してください！そして耐え忍んでください！

神様を大切に思うことで神様に対する信頼を保つ（5-6 節）
ダビデは神様に信頼を寄せることで、神様と交わされるいくつかの素晴らしい約束について教えてくれます。これは、人間の力によるものではなく、神様の力が働くことで起こるのです。5-6 節でダビデは興味深い考えについて語っています。ダビデの人生を振り返ると、全てが神様の御業であることがわかります。ダビデは実の父エッサイからの相続は一つも無く、神様がサウルに与えられた全てを譲り受けました。（サムエル記第二 12:8）それだけでなく、危うく失いそうになる場面もありましたが、だれにも奪われることなく、ダビデの王国は神様の約束通り、息子のソロモンに受け継がせることができたのです。ダビデは自分の持っているものすべてを神に求めていました。ダビデは神を、自分のために備え、自分を生かすと約束してくださる主権者として仰ぎ見ました。ダビデは神様から与えられたものを大切にしただけでなく、備えてくださる神様 Jehovah Jireh こそ宝物として大切にしていました。だから、裁きを下される神様を信用できると知っていたのです。

重要ポイント：神様との約束の中で最も素晴らしいものは、救い主イエス・キリストと永遠の命を与えてくださったことです。
私たちが霊的な物乞いとなり、神様に信頼を寄せ、神様が与えて下さったイエス・キリストを救い主として受け入れることで、永遠の命を約束されるのです。神様にそのことをお願いしたことがありますか。自分の力ではどうすることもできない、自分には戻る場所がない、と気付いた時、神様は神様の家を提供してくださるのです。

有名な哲学者のデカルトは「我思う、故に我あり」と言っていますが、クリスチャンは「我は神に依り頼む、故に我あり」と言うでしょう。神様に信頼を寄せて頼む時、神様の善が私たちのシェルターとなり、私たちに命を与えると約束してくださる永遠のものになるのです。ですから、この世がどうであろうと神様の善に価値を見出してください。

神様を信頼することで獲得する宝（7-8 節）
7 諭してくださる主をたたえよう。夜ごと、はらわたが私を戒める。8 私は絶えず目の前に主を置く。主が右におられ、私は揺らぐことがない。

ダビデは何を言わんとしているのでしょう。神様をどのようにしたら讃えることが出来るのでしょうか。
7 節の「たたえよう」は口先だけで神様を讃えることではありません。創世記 1 章で、神様は人間を讃えてくださり、王メルキゼデクもアブラムを讃えました。それは、与えることを意味します。神様は全てをお持ちの方ですから、私たちは一体、何を神様に提供することが出来るのでしょうか。
神様を讃える時、あなたは神様にあなた自身、そしてあなたの持つ全てを捧げているのです。神様のご意向に添えますように、と自分を屈するのです。自分が神様の御前に屈する時、神様があなたのもとに来てくださり、天国で働かれるようにこの世でもあなたを通して働かれるのです。
「神様に認めてもらいたい、神様を感心させたい！」という人と話すことがよくありますが、そういう時人は、神様から遠く離れてしまっているのです。神様に完全に屈した時、「御心がなされますように」と願っているので、神様があなたのうちで働かれます。あなたが望むことが、神様がずっと望んでおられたこととついに合致した時、ダビデのように自信を持って「8 私は揺らぐことがない」と言えるのでしょう。なぜならば、あなたは神様に導かれているからです。
神様はご自分の意がなされることを望んでおられますが、無理矢理、あなたにそれを押し付けることはありません。そこが最後の審判に関係する部分です。最後の審判で神様はあなたに、「私と共にありましたか？イエス・キリストを救い主として受け入れて生きてきましたか？」と質問されることでしょう。ヨハネの福音書 6:29

重要ポイント:神様に導かれるところへあなたが行って働くから、人生において神様の存在を認識することが出来るのです。あなたの行くところへ神様がついて行かれるからではありません。神様の力が伴えば、神様はあなたの神様となり、決して揺らぐことがなくなるのです。

8 私は絶えず目の前に主を置く。主が右におられ、私は揺らぐことがない。立ちはだかるものが何もなくなるのです。死さえもが。

完全なる復活(9-11節)

ここでダビデは自分の心の喜びや希望について語っています。
10節でダビデは自分の魂は、陰府や滅びの穴に捨てられず、喜び満ちて神様の御前にあると言っています。
ダビデがこのように喜べる理由は2つあります。

1. ダビデは真実を知っているからです。いつかさらなる喜びがあること、完全なる喜びがあることを。ダビデはそれを心待ちにしているのです。

フィリピの信徒への手紙 4:8。
8 なお、きょうだいたち、すべて真実なこと、すべて尊いこと、すべて正しいこと、すべて清いこと、すべて愛すべきこと、すべて評判のよいことを、また、徳や称賛に値することがあれば、それを心に留めなさい。

2. 2番目の理由は11節にもありますが、Yahweh(ヤーヴェ)がダビデに命の道を示されたからです。

重要ポイント:神様は私たちよりも前からあり、後にもいてくださるのです。
神様は始めと終わりです。
神様は備えてくださる方であり、神様ご自身が備えです。
神様は命につながる道であり、命そのものです。
神様は全能であり、昨日、今日、明日、未来へとずっと全ての上に君臨されておられます。

質問です:あなたはこの真実を知り、喜びで満ちていますか?
時には、喜びを全く感じないこともあるでしょう。わたしも同じです。疲れてイライラして取り乱している日もあるでしょう。また、神様のことでいっぱいに生きている日もあるでしょう。神様のことを讃えられない日もあるでしょう。
ここで再び、ダビデが詩篇16篇の中で語った、喜びへ繋がる道に焦点を当ててみましょう。
1節の「神様、私を守ってください。私はあなたのものに逃れました」に対して、2-11節は大きな意味で1節と同じですが逆行しているのです。
今日の詩編を後ろから読むと、「神様を信頼することは、自分を屈するということ。代わりにイエス・キリストにあって神様は、ご自身を与えてくださりあなたを守ってくだる。」ということなのです。

ルカによる福音書 9:23
23 それから、イエスは皆に言われた。「私に付いて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を負って、私に従いなさい。

私はこの聖句、特に「日々」という箇所が好きです。ここはクリスチャンや、まだクリスチャンでない神様を求めている人々に対しても語りかけているように感じるからです。日々、神様に完全に屈することが必要なのです。

あなたはイエス・キリストが喜びを与えてくださると信じて従いたいですか?あなたの人生をかけて神様のことを讃えてください。イエス・キリストの御前に屈して、全信頼を寄せれば、神様の存在をいつも感じることできるようになり、あなたの上に喜びがすぐに、また永遠に与えられるでしょう。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール:cc@tokyobaptist.org
もしくは:https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
(毎週届くメールニュース)
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https://t-b-c.us/sg3522jp

★クラス 101
教会員になるためのクラス
9月10日(土)13:30~17:30
★クラス 201
クリスチャンとして成長するクラス
9月24日(土)13:30~17:30
https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ参加申込み
http://t-b-c.us/sgsu